

3月定例会 討論(要旨)

※討論は議案に対する賛否の態度、考え方を明らかにするものです。
(討論順)

< 議案について >

石田秀三議員 (日本共産党)

議案第1号・議案第2号・議案第17号・議案第27号・議案第28号・議案第31号に反対、その他の議案は賛成。

国保税の大幅引き上げに反対する。不景気などで全く先行きが見通せない中での増税は、まさに市民の暮らしを直撃するものである。国保は医療分野のセーフティネット、国民皆保険という社会保障制度であることを認

めながら、市として法定繰り入れ以外は財政支援しないという姿勢は問題である。年3億円ほどの国保会計への支援を求める。また、財政が厳しいという理由で市民負担を引き上げる一方で、特別職の期末手当の支給アップを行うということは、つじつまが合わず撤回すべきである。市民に説明できない問題を含んだ新年度予算、本年度補正予算に反対する。

野間芳実議員 (平明の会)

全議案に賛成。

議案第1号について、病児病後児保育や子育てに関する相談機能などが一体となった総合的な子育て支援拠点になる西条保育園の移転整備費や、3歳までの乳幼児を対象として、医療費の窓口負担を無くす現物給付化を平成29年度から実施するための経費といった子育てなどに重きを置いた予算である。また、鈴鹿スマートイ

ンターチェンジ設置に伴うアクセス道路の整備費についても計上されており賛成する。

議案第17号について、国民健康保険は国保被保険者の保険料で賄われるべきものと考えますが、今回のように、国保税の大きな引き上げによる過度な負担を被保険者に強いることは受け入れられるものではない。被保険者の負担を減らすため、一般会計からの繰り入れを行うことは、市民の皆様の理解を得られると判断し賛成する。

森田英治議員 (リベラル鈴鹿)

議案第2号・議案第17号・議案第27号・議案第31号に反対、その他の議案は賛成。

議案第17号鈴鹿市税条例の一部改正は、国保税の税率を改定するものであり、ここ数年、単年度赤字が続いていながら、何の対策もせずに、いきなり平均で約17%の値上げをする内容である。

最も値上がりする世帯は、約25%、金額で年間15万円以上の値上げとなり、限度を超えた値

上げであると考えます。

今回の改定により、1人当たりの国保税が三重県で一番高くなると予想されること、また全国の市町村の3/4以上が、一般会計から繰り入れを行っていることから値上げの見直しをするべきと考え反対する。また、関連する数議案についても反対する。

議案第31号も財政が厳しい状況の中、報酬を上げるべきではないと考え反対する。

船間涼子議員 (公明党)

全議案に賛成。

議案第1号の歳入は、市立体育館・石垣池公園陸上競技場のネーミングライツ料500万円が、新たな税外収入の確保で評価する。本庁舎や消防本部、公民館などで自動販売機を設置する権利の競争入札による収入も評価する。歳出では市民会館ホールのつり天井改修やエレベーター設置

なども評価する。また、子ども医療費の、中学生までの助成拡大と3歳までの窓口負担をゼロにする現物給付方式の調査費を評価する。議案第17号について、昨年度一般財源から3億円を繰り入れ、国保税の引き上げはされなかった。しかし、3億円という額は児童福祉や高齢者福祉の削減につながる。今回の引き上げは、国保制度の安定運営のため、やむを得ず賛成する。

明石孝利議員 (鈴鹿の風)

議案第2号・議案第17号・議案第27号・議案第31号に反対、その他の議案は賛成。

国保税が、平成24年度からの累積赤字により、約17%の値上げをするということだが、これまで赤字解消に向け、対策、努力をしてきたのか。平成24年度から今日まで、赤字額は縮小どころか、拡大する一方であり、また10年以上にわたっ

て、国民健康保険の収入のバロメーターとも言うべき収納率は、県内で最下位またはビリから2番目の状態が続いている。

このような中、値上げをすれば、1人当たりの国保税調定額は県内で最高額となるが、収納率は最下位クラスのままである。

さらにこのタイミングで市長や副市長といった特別職の給与の値上げは納得できるものではなく、反対する。